

議事(2) 平成29年度の取組実施状況について

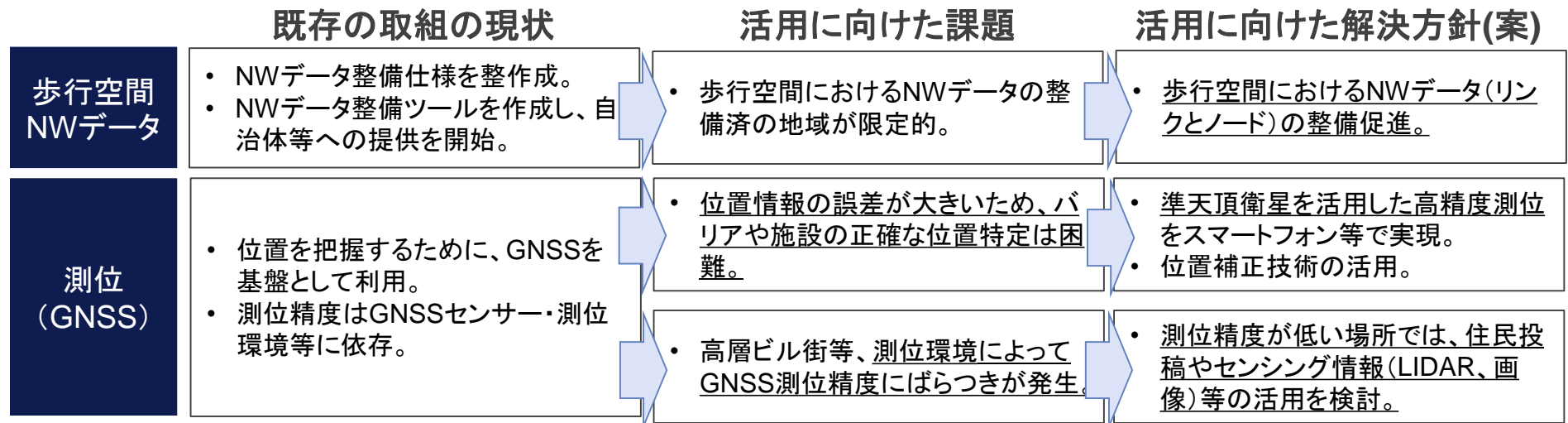
持続可能なデータ整備・更新手法の検討(補足)

平成29年12月26日(火)

政策統括官付

(参考) 基盤情報(NWデータ・測位環境)の重要性について

- 収集したデータを地図上に表示する際には、歩行空間ネットワークデータとのマップマッチングが必要。
- GNSS測位は測位精度が課題だが、今後、準天頂衛星による高精度化が期待される。ただし、高層ビル街等の測位精度が低い場所では、住民投稿やセンシング情報等の組合せによる補完を検討。



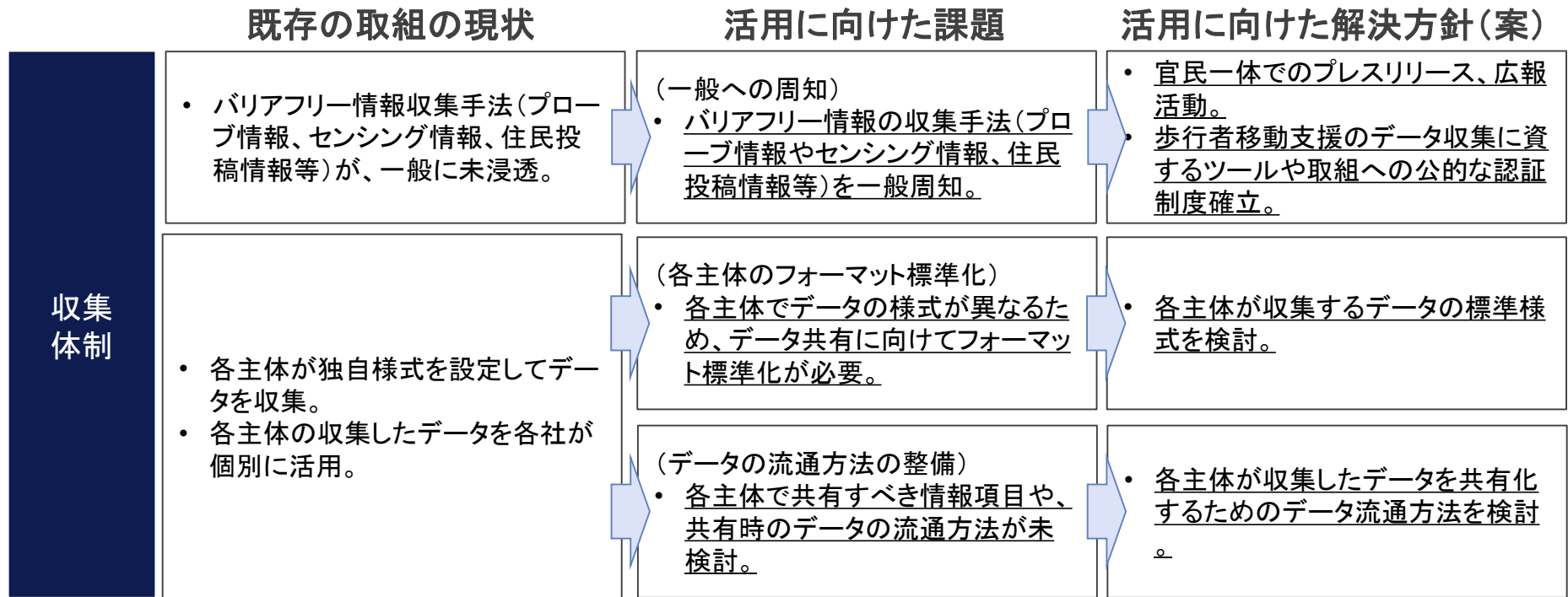
(1) 収集体制(1/2)

- 収集体制の構築については、ユーザー確保、インセンティブの確保、収集機会の確保が主な課題。
- 収集促進を図るために、より効果的なインセンティブ手法について検証が必要。あわせて、東京2020大会の競技会場周辺における先行的なデータ整備、他分野との連携によるデータ収集機会の確保が必要。

	既存の取組の現状	活用に向けた課題	活用に向けた解決方針(案)
収集体制	<ul style="list-style-type: none"> 投稿促進の仕組みは、以下の通り。 ①商品と交換できるポイントを導入。 ②ランキング等ゲーム性の導入。 ③投稿に対する評価や閲覧数を見える化(承認欲求を刺激) ④イベント開催によるコミュニティ形成。 ⑤投稿の習慣化。 	(インセンティブの確保) <ul style="list-style-type: none"> 投稿促進方法について各手法の有効性が未検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーミフィケーション等の手法を取り入れてデータ収集促進につながる有効な仕組み(インセンティブ)を整理。
	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー確保の取組は以下の通り。 ①商品と交換できるポイントを導入。 ②コンテンツ充実を行い、サービス閲覧者を増加。 ③著名人とタイアップしたりリリースイベントの実施。 	(ユーザー確保の仕組み) <ul style="list-style-type: none"> 閲覧者増加、投稿者増加に向けたデータ整備・充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧ニーズが高いと想定されるエリア(主要観光地、駅、オリパラ会場等)のデータを先行的に整備・公開し、閲覧者を確保。
	<ul style="list-style-type: none"> 収集イベントや実証等の意識的にアプリを利用する時のみ情報が収集可能。 高等教育の授業への取り入れ。 	(収集機会の確保) <ul style="list-style-type: none"> ユーザーの投稿機会が限定的。 	<ul style="list-style-type: none"> 異分野(学校教育、商店街や飲食店等)と連携することでバリア情報の投稿機会を創出。


(1) 収集体制(2/2)

- 全国で情報を整備していくためには、ツールの普及や収集情報の一部を共有する仕組みづくりが課題。
- 官民一体となって各技術を活用したデータ収集に係る広報を行う他、認証制度による普及、各主体が収集するデータの標準化、データ共有のためのデータ流通方法の検討が必要。



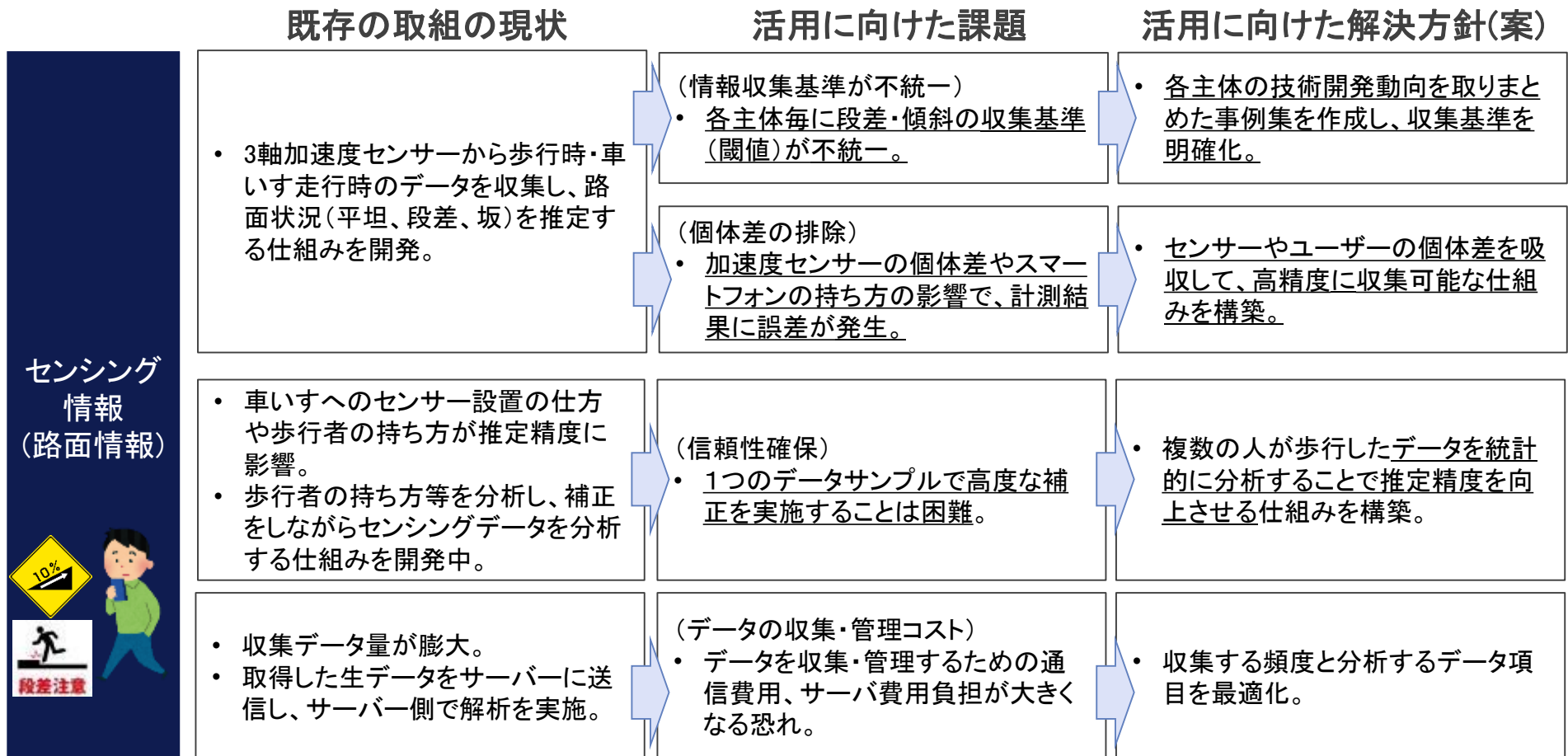
(2)収集方法(プローブ情報)

- プローブ情報活用については、測位精度、マップマッチング課題。今後も、各主体による測位精度の向上、マップマッチングの技術開発動向を注視。また、収集データは個人情報を含む可能性があるため、取扱いルールの検討が必要。
- また、プローブ情報の収集促進に向けて収集簡易化・自動化やインセンティブ確保が重要。

プローブ情報	既存の取組の現状	活用に向けた課題	活用に向けた解決方針(案)
	<ul style="list-style-type: none"> • 端末性能向上に応じて測位精度の向上がみられるが、測位環境等に依存して誤差が発生。 	(精度) <ul style="list-style-type: none"> • ※基盤(GNSS測位)に同じ。 	※基盤(GNSS測位)に同じ。
	<ul style="list-style-type: none"> • 車いす利用時とそれ以外の移動手段を見分ける仕組みが実現。 • 歩道へのマップマッチングは困難。 	(マップマッチング) <ul style="list-style-type: none"> • <u>現在のマップマッチング技術では実際に通行したリンクを高精度に推定することは不可。</u> 	歩行者プローブのマップマッチング技術の精度向上に向けた検討
	<ul style="list-style-type: none"> • 記録を開始するとGNSSセンサーで位置情報(時刻、緯度、経度)を収集。 	(個人情報保護) <ul style="list-style-type: none"> • <u>取得データから自宅や職場など個人情報</u>が特定される恐れ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 取得データの取り扱いルールを検討。<u>個人情報の特定につながるデータ削除の仕組み</u>を検討。
	<ul style="list-style-type: none"> • 古い通行実績と新規の通行実績が混在。 	(データ更新方針) <ul style="list-style-type: none"> • 既に通行が困難となった経路に、過去の通行実績が残る恐れ。 	取得データの有効活用期間を検討。
	<ul style="list-style-type: none"> • ナビゲーションサービス実現後、ナビゲーションを活用している間にデータを収集可能。 	(データの連続取得) <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーが必要なときだけ収集するため、取得データが断続的。 	データ取得を習慣化する仕組みを検討。

(3)収集方法(センシング情報)

- センシングによる路面情報の活用については、推定精度向上が課題。今後も、各主体のセンシングの推定精度向上に関する技術開発動向を注視。また、センシングで求められるデータ収集基準が不明確であるため、収集基準の明確化が必要。
- また、センシング情報の収集促進に向けて収集簡易化・自動化やインセンティブ確保が重要。

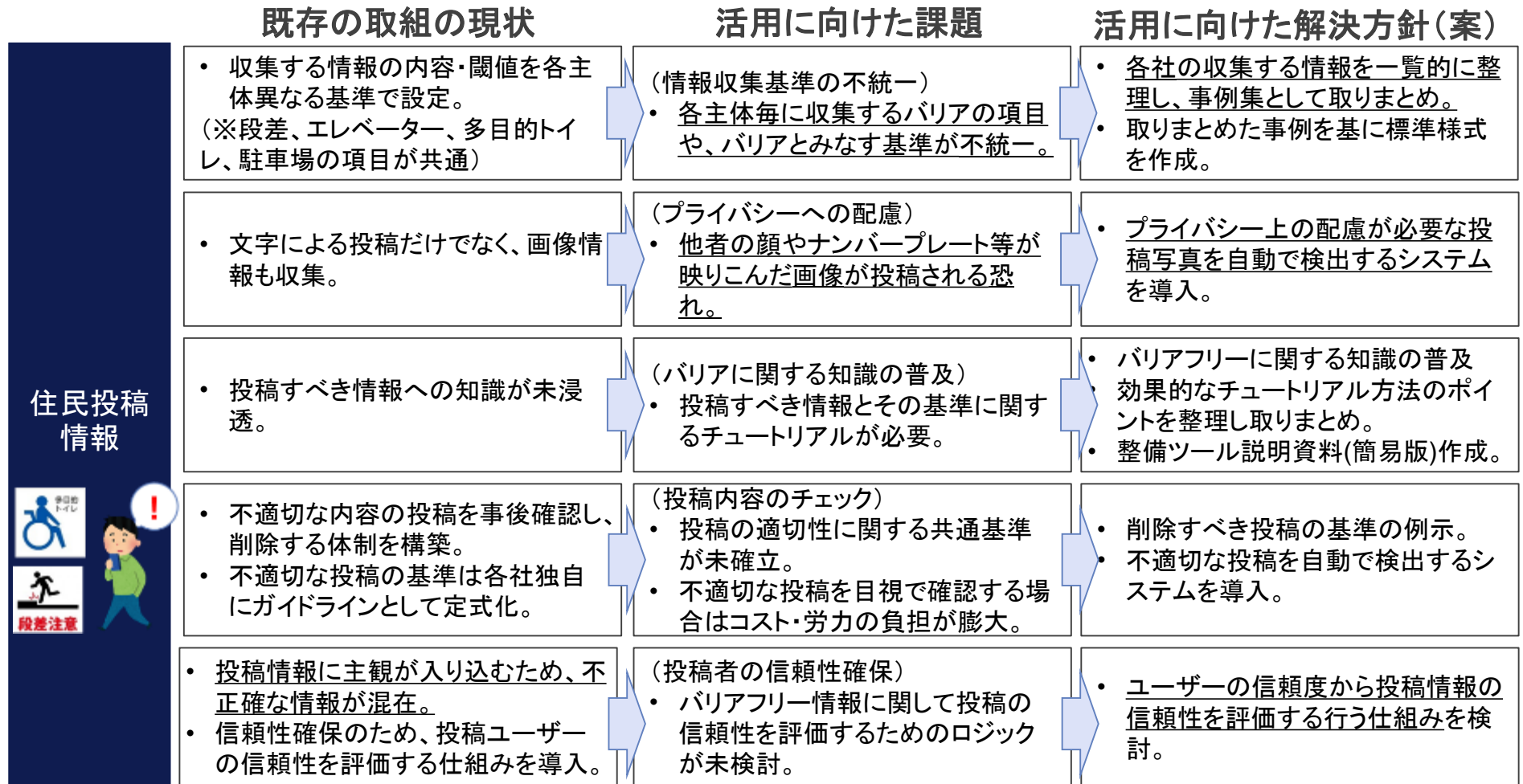


センシング
情報
(路面情報)



(3) 収集方法(住民投稿情報)

- 住民投稿情報については、投稿内容のチェック・信頼性確保の機能が課題であるため、自治体や中間的な団体等の連携の仕組みづくりが重要。
- また、住民投稿情報の収集促進に向けて、住民が安心して投稿できるツールの提供や、ゲーミフィケーションも取り入れた収集促進方法(インセンティブ)の検討が必要。



住民投稿情報

